

川上社長のコラム

先月、もう少しで「お子さんを殺してしまう」かもしれなかった事故を発生させています。

当社の運転手が深夜の高速道路を走行中、漫然運転により家族 4 人が乗った低速車両（キャンピングカー）に気づくのが遅れ追突。

衝撃で被害車両の破れた車体から、小学生のお子さんが道路の当該車両側に投げ出されてしまうという酷いものでした。

幸いにも直接的な接触がなく、後続車両が来る前にお子さんが自力で路肩に逃げ、奇跡的に軽傷事故で済んでいます。大成丸沈没の危機でした。

冒頭で「お子さんを殺してしまう。」と表現しましたが、これは事故後の調査で運転者が衝突軽減装置を切っており（トラックのコンピューターに作動状態が記録されており発覚）、もし装置が正常に機能していれば、低速車を感知し警告音と急制動で運転者が素早く反応、事故は逃れることが出来たかもしれません。

運転者が衝突軽減装置を切ったことで、もはや故意に事故を起こしたようになってしまったことが、とても悔やまれます。

そして、もし今回の事故が重大事故で（子どもが亡くなり）私が被害者の家族であったなら、これは事故ではなく「殺人」だと訴えたと思います。

今回事故を起こした運転手は、皆さん同様いつも良く頑張ってくれており、感謝し信頼していた方です。

幾度も走った道に慣れ、安全を過信し衝突軽減装置を切ったままで走行したことで、被害者家族の夏休みを台無しにし、自身の信用と会社や仲間を裏切る結果になってしまいとても残念な思いです。

危機感や緊張状態を維持し続けることは、新型コロナの対応を見ていると大変難しい事だと実感しています。そうした中で皆さんが色々と工夫しながら運転に集中していることに感動させられますが、万一、油断が生じたときに備え、会社では積極的に安全装置が付いた車両を購入しています。

自身の運転を過信しないようによく言い聞かせて必ず使用し、二度と同じようなことが起らないようにしましょう。

いつも伝えているように、大成運輸は自ら安全を放棄するような方を仲間としていません。自身の為、大切な方の為、お互いに気を引き締めて頑張りましょう。